

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 款：土木費 項：都市計画費 目：都市公園費

事業名 県営都市公園活性化戦略推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

都市建築部都市公園整備局 都市公園課 活用推進係 電話番号：058-272-1111(内 3772)

E-mail: c11669@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 120,428千円 (前年度予算額：103,700千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附 金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	103,700	7,500	0	0	0	0	0	0	96,200
要求額	120,428	21,380	0	0	0	0	0	0	99,048
決定額	120,428	21,380	0	0	0	0	0	0	99,048

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・7つの県営都市公園のうち、花フェスタ記念公園、養老公園、世界淡水魚園、ぎふ清流里山公園の4つの公園を対象に、平成28年10月に「岐阜県都市公園活性化基本戦略」を策定し、各公園の持つポテンシャルを最大限に発揮するため、基本戦略に示された取組方針に基づき、ハード・ソフトの両面にわたる事業を展開した。
- ・今後の県営都市公園は、多様な地域資源をつなぐ拠点として「清流の国ぎふ」に相応しいブランドの確立に貢献していくことが求められていることから、令和2年度に策定する次期「岐阜県都市公園活性化戦略」に基づき、引き続き、ハード・ソフトの両面にわたる事業を実施していく。

(2) 事業内容

① 県営都市公園活性化展開事業

基本戦略に記載された取組みを着実に推進し、各公園に磨きをかけ、魅力を向上させるとともに、公園を核に周辺の地域資源をつなぐ事業(誘客

PR事業等)を実施する。

② 県営都市公園活性化懇談会開催費用

基本戦略の取組に係る意見交換の場として、外部有識者や行政関係者などで構成する「岐阜県都市公園活性化懇談会」を開催する。

③ 啓発宣伝費用

活性化展開事業に関わる広報について、タイミングや媒体(手段)なども考慮し、機動的に実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

戦略に基づく活性化事業(指定管理者が指定管理者業務として行うものを除く)であり県が主体となって実施する。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	3,100	有識者等関係者謝金
旅費	1,000	費用弁償、職員旅費
需用費	646	消耗品費：240千円、会議費：10千円、対外交流費：250千円、印刷製本費：146千円
役務費	80	通信運搬費
使用料	70	高速料金
委託料	115,532	県営都市公園活性化展開事業
合計	120,428	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県都市公園活性化基本戦略
- ・岐阜県成長・雇用戦略

7 成長分野ごとの施策、 (3) 観光分野

主要観光地再生プロジェクト (1) 県営公園誘客促進プロジェクト

(2) 後年度の財政負担

今年度中に策定を進めている次期基本戦略に基づき、ソフト・ハード両面において、継続して活性化策に取り組んでいく。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

何をいつまでにどのような状態にしたいのか

- ・ 県営4公園それぞれの入園者数を次期戦略の終期（令和7年度）までに、底上げを達成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移			現在値	目標	達成率
		(H29)	(H30)	(R1)	(前々年度末時点) (R1)		
来園者数	(H26)	(H29)	(H30)	(R1)	(R1)	(R3)	—
養老公園	80万人	120万	125万人	137万人	137万人	115万人	143%
里山公園	32万人	19万	70万人	64万人	64万人	70万人	218%
河川環境楽園全体	448万人	452万	462万人	463万人	463万人	460万人	103%
花フェス	35万人	38万	38万人	43万人	43万人	49万人	140%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- ・ 次期基本戦略策定に向けた活性化懇談会の開催（9月、他2回予定）
- ・ 養老公園140周年イベントの実施（8月、9月）

（前年度の成果）

前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

- ・ 活性化基本戦略基本戦略に基づく取り組みにより、年々入園者数は増加している（コロナウイルスの影響により、令和2年度は減少）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>県営都市公園は、県民の憩いの場であり、生活に潤いと安らぎを与えるとともに、特に主要4公園は年間入場者数が30万人を超える重要な観光資源でもある。さらに機能を充実させ多面的な役割を発揮するべく活性化に向けて戦略的に取り組むことの必要性は高い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<p>平成27年度と比べ、入園者は増加している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

<p>事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活性化に向けて戦略的に取り組み、魅力ある公園づくりを実施する。
--

(次年度の方向性)

<p>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期基本戦略の期間中に、県営都市公園のポテンシャルを最大限に発揮するとともに、多様な地域資源をつなぐ拠点として「清流の国ぎふ」に相応しいブランドの確立に貢献していくため、基本戦略に基づき計画的にソフト・ハード両面において展開していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	